

## 巻 頭 言

高橋五郎（愛知大学国際中国学研究センター・所長）

愛知大学国際中国学研究センター（以下「ICCS」という。）は、21世紀COEプログラム（平成14年度採択）事業を契機に発足しました。同プログラム事業終了後も、現代中国学の方法論的構築やその発展・応用研究に実践的取り組んでいるばかりでなく、内外の研究機関や個人研究者、特に日本全国に分散する現代中国研究者の組織化を進め、連携強化と研究成果の蓄積にも大いに貢献してきました。

ICCSの代表的な共同研究の成果は、内外から参加した74名による『現代中国学の構築に向けて』（日本評論社、全5巻（各巻300～480ページ）、高橋五郎編『海外進出する中国経済』平成20年3月刊、榎根勇編『中国の環境問題』同、加々美光行編『中国の新たな発見』同、張琢・馬場毅編『改革・変革と中国文化、社会、民族』同5月刊、加々美光行編『中国内外政治と相互依存』同6月刊）、Shinichi Kawai ed., *New Challenges and Perspectives of Modern Chinese Studies*, Universal Academy Press Inc.(2008)等として結実し学界の注目を集めてきました。また共同利用資源として、中国文化大革命資料、約60年（東亜同文書院を含めると約100年）に及ぶ愛知大学紀要等掲載の中国研究関連論文集（約500編）、現代中国の基礎研究に有用な東亜同文書院関係貴重書、ウィットフォーゲル・コレクション（2,435冊）、中国発行図書（23万冊）・新聞・雑誌（新聞雑誌は創刊から購読中が400種）、21世紀COEプログラム以後のICCS共同研究成果等のデータベース、その他ICCSを通じて利用可能な近現代中国関係資料などを所蔵・整備、外部研究者による共同利用態勢を整えています。

ここ数年、国際社会では、現代中国の予想を超える多面的な影響力の急速な拡大現象が起きています。この動きは日本を始めとする周辺国のみならず欧米、アフリカ等に及び、加えて長期的な傾向としてさらに拡大する可能性が高いと考えられています。かかる急速な現代中国と国際社会をめぐる環境変化の動向をふまえ、ICCSは、これまでの現代中国学の方法論的発展及びその現地主義的研究により得られた共同研究の成果を基幹とし、その応用・発展分野として、現代中国の対外的影響の現状と問題点等の解明、現代中国と国際社会との協調のあり方を共同で模索・提案する「国際中国学(International Chinese Studies)」の創生を目指しています。ICCSでは、そのため、①全国の中国研究者等のための共同利用拠点としての機能性と公開性を一層高め、②これらを活用して共同研究を行う新たな取り組み方法として、国際中国学競争的共同利用・共同研究システム(RPICS: Rallying Point System of International Chinese Studies)の構築に取り組んでいきます。

今秋を目処により緻密な体制を整えて本格的に創刊号発行を準備中ですが、このe-journalは、こうしたICCSの諸事業とその成果をよりヴィヴィッドに公開していくメディアの一つとして今後定期的に発行していくための「準備号」です。今後の展開に大いに期待ください。